

# 「働くということ」とこれからの社会

“Working” and Society in the future

北田 奈緒子 (きただ なおこ)

(一財) 地域地盤環境研究所 研究開発部門 主席研究員

## 1. はじめに

技術者紹介の執筆を仰せつかった後、はてさてどんな内容を書こうかと考えました。H28 年度に地盤工学会のダイバーシティ担当理事としてお役をいただき、いろんな人のお話を伺ったり、他の学会における同様の活動にも参加するようになって、社会の中での「多様性」ということについて考える機会が増えました。けれども、自分の歩んできた人生については、土木学会で出版された女性土木技術者の紹介本にも既にも書いておりますし、繰り返すのもどうかと思いながら、何を伝えるべきかを考えておりました。簡単に紹介しますと、地球科学の面白さ、特に地殻変動などに興味があった大学院時代に兵庫県南部地震を体験し、研究だけではなく社会にも役に立ちたいという思いから現在の職場に入り、活断層調査や地盤環境の解析を行うことで、今後の防災対策へのデータ提供や構造物設計時の耐震検討などに対する情報提供を行っています。

新聞などで「IoT/AI に職を奪われる」など激しい表現で話題になった研究があります<sup>1)</sup>。2013 年にオックスフォード大学の二人の研究者が取りまとめた 2010~2020 年に IoT/AI によって仕事が代替する可能性について確率的に検討した論文です。702 種の職業について検討を行い、ランキングで職業を示しています。日本では、レジ係や検査作業員、機械オペレーター、ネイリストなどの職業が無くなると報道されましたが、逆に、科学者や技術者はトップ 100 以内で消えにくい職業と評価されています。消えにくい職業とは、単純な繰り返し作業というよりも、人の試行錯誤や考察、他者との交渉などが必要な仕事と説明されています。実際には、どの仕事でも IoT/AI によって代替されても、それを使いこなす人間が必要であるということだと思います。

## 2. 家族と暮らす生活

私の家族構成は、パートナーの夫と子供（中学生の男子）2 人、私の母の 5 人暮らしです。4 月から中学生に通うようになった次男の姿をみて、ようやく少しは手がかからなくなったかとホッとしながらも、多感な年ごろで、行動範囲も広がったせいで、逆に心配なところも増えてきました。夫は私と同じ業種なので、長期の出張

などは、別々になるように意識していますが、時に行動を共にすることもあり、学会や出張が重なる場合もあります。私の母はそのような時の助っ人として、家族の中では、まだまだ現役で活躍してくれています。子供たちは幼少期より元気に育ってくれたおかげで、幼稚園から小学校を経て、次男も今年中学校に入学しました。

日常の私の生活は、朝はみんなのお弁当作りから始まって、朝食後に皆が順次出かけていきます。クラブだとか、出張とかで出かける時間は日によって異なります。場合によっては、私が一番に出かけることもあります。とにかく、お弁当は仕上げて出かけています。日中の仕事は普通にこなしますが、打合せや資料整理もあり、帰宅は概ね 19 時前後を目標とし、帰ったらそこから晩御飯作りが始まります。成長期の子供たちはお腹を空かせているので、大忙しです。21 時まで夕食を済ませると、あとは、片付けやお風呂、子供の宿題を見たりして時間が過ぎます。12 時前には子供たちが就寝、その後、家に持ち帰った仕事があれば、対応します。自由時間は食後から就寝までの時間の中で適宜とりませんが、基本的に時間はずんずん過ぎていく感じです。出張の時は、晩御飯の準備をある程度行っておいて、最後の仕上げなどは母にお願いして出かけています。私学に通う子供たちは小学生から学食を利用することができるので、出張時でお弁当を作るのが難しい時には学食でお昼を食べてもらっています。

## 3. 裁量労働性お小遣いについて

中学生になって、子供たちにお小遣いを渡しています。必要な文房具や書籍はこちらで買いますので、お小遣いは月額 3,000 円としておりました。次男に今年からお小遣いを渡すにあたって、いろいろと考え、子供たちと相談して、最近流行りの裁量労働性を導入することにしました。子供のお小遣いって、友達と遊ぶためとか、欲しいものを買うために月に幾らかを無償で親からもらうのですが、これを当たり前と考える傾向にあります。なので、最近の国会審議で耳にした裁量労働性を子供たちに適用してはどうかと考えました。簡単なお手伝い・・・お布団の上げ下ろし、配膳と片付け、お風呂洗いなどを 1 単位 100 円として設け、2 人で実行すれば 50 円として毎日カウントし、1 月で何単位お手伝いしたかでお小遣

いが変動するようにしました。1日1単位の仕事をすれば、これまでと同じ3,000円が手に入ります。何か欲しいものがあれば、もっと頑張ればよいということで、励みになるかと考えました。子供たちの同意を得るにはかなり時間がかかりました。中学生になったらお小遣いをもらうのは当たり前と考えているところ、特に、長男においては、2年間は何もしないで手に入れていたお小遣いに労働が発生することに難色を示し、次男はどうして自分は最初から苦労もせずにお金を手にしていた長男と異なる待遇になるのかと不平を漏らしました。でも、頑張ればもっとたくさんのお小遣いが手に入ることを夢見て承諾してくれました。

4月から裁量労働性お小遣いを始めました。子供たちは無理なくお手伝いを行うと同時に、カレンダーに記録された毎日の単位数を見てお小遣いの金額を算定し、しめしめとほくそ笑んでいます。夫は子供たちの単位が上がりすぎないように、お手伝いを阻止すべく、先に先にお手伝いをしてくれます（もちろん、夫は裁量労働性お小遣いではありません・・・あくまで、子供たちがサクサクと動いてくれるように、先んじて行動しています）。夫も一緒にしてくれたお手伝いの場合、子供たちの作業は3人で1単位なので、1/3単位になってしまうので、子供たちは大慌てです。4月末での結果は、予想通りの3,000円程度でありました。「5月はもっと...」と子供たちは張り切っています。無償でお小遣いをもらうよりも、労働の対価として得たお小遣いをどのように使うのか、どれだけ心に響いたのかは、これから先の成果として見守っていきたいと思っています。

### 3. 名も無き家事たち

子供の裁量労働性お小遣いを実施してから気づいたのですが、なかなかお手伝いの単位として示せないものがたくさんあることに気づきました。食事時間以外で使用したマグカップやお皿の片づけ、洗い終わった食器を食器棚に片づける、たまった新聞や広告、雑誌や郵便物の整理、玄関の靴の片づけ、ごみの整理や食べ残しの整理、トイレトーパーの補充など、ちょっとしたことだけど、溜まると厄介なもの...を指します。最近話題となったキーワードの一つです。

ダイワハウスが実施した名も無き家事ランキングを見ると、表1に示す結果となります<sup>2)</sup>。じっと見るとなかなか意味深く感じる内容が多いと感じます。我が家においても課題となる事案が多いです。食事作りは基本私なので、5位の「献立を考える」は私の作業としても、2位の「玄関の靴の片づけ」や4位の「衣服の片づけ」や6位の「コップやペットボトルの片づけ」、9位の「資源ごみの仕分け」もなかなか個々においてするのは難しいのが現実です。文字に書き出して家族と話をすると、「なるほど」「そうだねえ」と納得して、「トイレトーパーの補充」や「シャンプーなどの補充」は主人や子供たちがやってくれるようになりました。もし

かしたら、各家庭でこのような名も無き家事について話題にされると、それぞれが何か気づいて助けてくれるかもしれません。家族で手伝い合うことができれば、家事でカリカリしない分、仕事にも集中できるのではないのでしょうか？

表1 名も無き家事のランキング<sup>10)</sup>

順位	項目、内容
1位	裏返しに脱いだ衣類・丸まったままの靴下をひっくり返す作業
2位	玄関で脱ぎっぱなしの靴の片づけ・下駄箱へ入れる/靴を揃える
3位	トイレトーパーの補充・交換
4位	服の脱ぎっぱなしを片づける・クローゼットにかける/脱ぎ捨てた服を回収して洗濯カゴへ入れる
5位	食事の献立を考えること
6位	飲み終わったコップやペットボトル・空き缶を片づける/洗う
7位	子どもが散らかしたおもちゃなどの片づけ
8位	シャンプー・洗剤・ハンドソープなどの補充・詰め替え
9位	資源ごみの分別・仕分け
9位	お風呂や洗面台の排水溝に溜まった髪の毛を取り除く/お風呂の排水溝の掃除・網変え

### 4. 最後に

いろいろと書いてきましたが、結局どれだけ自分たちの日々の生活について、「質の向上」を考えて生活するのかが重要かと感じます。「暮らし=家庭」は一人から多人数にわたります。なので、ここでいう日々の生活とは家族単位の暮らしになります。家族の全員がそれぞれに「感謝と思いやり」を持ちながら、誰かに負担を押し付けることなく生活ができればハッピーなのだと思います。

「IoT/AIに職を奪われる」と言われる一方で「名も無き家事たち」が台頭する昨今、消える仕事もあれば、新たに命名されて生まれる仕事（家事）もあるので、結果的には仕事はなくならないのかもしれませんが。

IoT/AIに難しいことは、精神的なことや無名の細々したことなので、仕事も家庭も「質の向上」を考えれば、それなりに新しい世界が開けるのではないかと思います。

#### 参考文献

- 1) Frey, C. B., & Osborne, M. A. : The Future of Employment : How Susceptible are Jobs to Computerisation?. Oxford Martin School Working Paper. 2013.
- 2) 大和ハウスグループ, 入手先 < <http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/kajishare/ranking.html> > (参照 2018.4.27)

(原稿受理 2018.6.6)